

IR 推進室の概要と教学改善の事例紹介

1. IR 推進室の概要

IR 推進室

埼玉女子短期大学では平成 27 年度に、学内における教学改革および改善を支援し、その充実を資することを目的に「*IR 推進室」を設置しました。

*IR: Institutional Research

IR 推進室の組織

- ・ IR 推進室長
- ・ IR 推進室員（集計分析担当）
- ・ 学長、学科長、学長補佐、事務局長、総務課長、学務課長

主な業務

学生の学修時間および教育の成果等に関する情報を収集・分析し、教育活動の改善を進めるための客観的データを各部門に提供する。

活動内容

- ・ 学修時間行動調査の実施・集計・分析（学期末）
- ・ 新入生アンケートの集計・分析（4 月・新入生のみ）
- ・ 卒業時満足度調査（年度末・卒業年次生のみ）
- ・ その他

集計・分析結果および就職・資格取得実績の公表

https://www.saijo.ac.jp/site_info/disclosure.php

2. 実施している各種調査・分析

学修時間・行動調査

新入生入学時アンケート

学生の声調査

卒業時満足度調査

GPS Academic

2023 年度短期大学卒業生調査

2023 年度企業による卒業生評価アンケート集計結果の報告

3. IR データによる教学改善事例

令和7年度

きっかけの教学 IR データ等	教学改善事例
学修時間行動調査	留学生用の設問を作成した。

令和6年度

きっかけの教学 IR データ等	教学改善事例
課題解決力テスト (GPS-Academic)	1・2年次の結果比較より、批判的・協働的な思考力が2年間の学修によっても伸長しない状況が捉えられたため、2027年度カリキュラムにおいて科目の年次配当を調整し、段階的に能力の伸長を図れるよう改善を行った。
科目アセスメント	商学科が掲げる学修成果の一つである「商学・経営学に関わる深い知識」を強かに伸ばす科目が少ないと判断される結果を踏まえ、2027年度カリキュラム検討時に「現代商学」と「マーケティング」の2科目を必修化し、商学科の核をなす学修内容が必ず修得されるように制度の見直しを行った。
SAIJO 数理・データサイエンス・AI リテラシーレベル教育プログラム自己点検・評価報告書	プログラムの履修率および修了率に学科間の顕著な差があることを踏まえ、2027年度カリキュラムにおいて、プログラム構成科目の一つである「コンピュータ基礎知識」を商学科専門科目から教養・キャリア科目に変更し、どちらの学科からも履修しやすくした。
卒業生企業評価・企業アンケート・企業ヒアリング	卒業生や在学生に対し、リーダーシップや考え抜く力の面で課題が捉えられたことを受け、2025年度より、「基礎ゼミⅣ」における研究発表や各科目の各種取り組みにおいてPBLの手法を積極的に導入することとなった。

令和5年度

きっかけの教学 IR データ等	教学改善事例
外部評価ヒアリング	インターンシップやボランティアなど、正課外の活動を単位認定する取り組みに対し企業関係者からの高い評価が得られたことを踏まえ、専門ゼミに関わるボランティア活動などを新たに認定対象に加え、参加促進を図った。

令和4年度

きっかけの教学 IR データ等	教学改善事例
卒業生企業評価（卒業生モニタリング評価）	卒業生に対する企業からの評価より、「前に踏み出す力」や「考え抜く力」に課題が見つかったため、「地域連携活動」の認定対象活動を拡大し、2024年度カリキュラムにおいて「地域連携活動D」を追加した。
2年次ヒアリング	SDGs やデータサイエンスに関する学習ニーズが捉えられたため、2024年度カリキュラムに「SDGs・ESG マネジメント」を追加し、新規コースとして商学科に「情報社会・データサイエンスコース」を設置した。

令和3年度

きっかけの教学 IR データ等	教学改善事例
2年次ヒアリング	SPI 対策や時事を扱う科目を望む声が聞かれたことを踏まえ、2023年度カリキュラムにおいて「教養と数学」を新設すると共に（キャリア基礎科目・選択必修）、「時事経済」をキャリア基礎科目群（選択必修）に加えた。
企業アンケートおよび企業ヒアリング	在学生に対する企業関係者からの評価において、「論理的思考力」や「課題解決力」に不足があることが捉えられたことを受け、2023年度カリキュラムより、各学科に「学科教養科目群」を新設し、国際コミュニケーション学科では「ディベート」を当該科目群の一つとした。